

バリアフリーネットワーク会議の活動

バリアフリーネットワーク会議は、障がいのある児童、高齢者、その他の手助けを必要とする人々の生活や余暇活動時における介助等を包括的に支援しています。すべての人々が健やかに自由に暮らせる地域社会づくりを目的とし、“真のバリアフリー社会”の実現・ハンディキャップのある方々の積極的な社会参加への実現に寄与する活動を行っています。

沖縄県内にとどまらず各地域に活動の場を広げ、増加する外国人観光客の方々を含めた“誰もが楽しめる”やさしい観光地づくりに取り組んでいます。以下に、主な活動を紹介します。

・ しょうがい者・こうれい者観光案内所

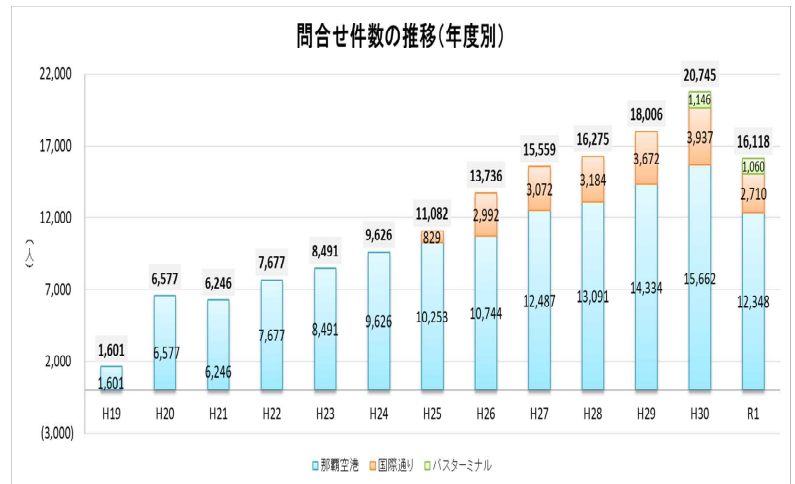
2007年に那覇空港、2013年に国際通り、2018年に那覇ナスターミナルにしょうがい者・こうれい者観光案内所を開所しました。「沖縄に遊びに行きたい！」という車いすをご利用の方、視覚・聴覚・知的等の障がいのある方、ご高齢により歩行に自信のない方、介護が必要な方々の不安をなくし、安全で安心できる沖縄観光をサポートします。

各窓口では、バリアフリー観光に関する情報提供や、滞在場所や移動方法などの問い合わせ・相談への対応を行っています。これらは窓口で直接来る場合もありますが、電話やメール、FAXでも多くの問い合わせがあります。他にも、車いすやベビーカーのレンタル、旅行の付き添いや食事・入浴介助のスタッフの手配など、ワンストップ窓口として対応しています。

近年では海外からの問い合わせも増加しており、英語によるやりとりも可能です。多様化する観光客の目的や要望に応え、障がいのある方、高齢者の方、外国の方にも沖縄観光を心より楽しんでいただけるよう取り組んでいます。



〈那覇空港〉



・ 福岡空港 しょうがい者・こうれい者観光案内所 開所！

2019年11月15日に、福岡空港しょうがい者・こうれい者観光案内所が開所しました。福岡および九州のワンストップ窓口となり、窓口での相談・問い合わせの対応、レンタル業務を行っています。このように、バリアフリーネットワーク会議では、福岡をはじめ他地域においても安心・安全な観光地作りのため、取り組みを拡大し続けています。

窓口には大学生や専門学生から社会人の方まで、ボランティアとしてさまざまな方々に参加いただいています。場所は福岡空港国内線ターミナルビル1F 到着口ロビーとなっています。



・ 逃げるバリアフリー

都市空間や交通機関、建物などは、障がい者を意識したつくり徐々に改善されてきました。建物の入り口の段差は解消され、階段には手すりが付き、トイレも車いすやオストメイト対応のものなどができています。これらのバリアフリー化は、障がい者がその場所に行き施設を使用したり、施設に滞在したりできるようにする、いわば、「入口のバリアフリー」といえます。もちろんそれも必要ですが、災害が起きた場合、障がい者などの移動に制約がある方々は、健常者と同じように避難できるのでしょうか。「出口のバリアフリー」の改善は進んでいるのでしょうか。そのためには、障がいのある方たちを安全に避難させる「逃げるバリアフリー」(逃げバリ)の整備が必要です。

バリアフリーネットワーク会議では2008年からこの取り組みを始めており、これまで県内のホテルと協力して「逃げるバリアフリー避難訓練」を全国で初めて実施しました。更には同様の訓練を夜間に行ったり、障がい者・高齢者の配慮者別の理解と基本的な支援方法、災害時における応急支援など、自力での避難が困難な方々への対応を包括的にまとめた『逃げるバリアフリーマニュアル』を発行しています。



・ 法人発行冊子

バリアフリーネットワークでは、バリアフリー観光ガイド『そらくる沖縄』をはじめ、観光バリアフリーに関するさまざまな冊子を発行しています。『そらくる沖縄』は年1回発行、現在13号まで発刊されています。周辺離島も含めた沖縄県の観光情報並びにバリアフリー情報を紹介しています。沖縄を訪れる障がい者・高齢者・介助者の方々が安心・安全な旅を実現できるよう、実際に障がいのある方のチェックにより、身体障がい者用の駐車スペースや、誰でもトイレ、点字、授乳室などの有無など様々な視点でデータ収集を行い、ピクトグラムサインを使って反映するなどし、読みやすく分かりやすい工夫を行っています。更に2019年には、福岡空港しょうがい者・こうれい者観光案内所の開所に伴い、『そらよか九州』が発刊されました。

他にも沖縄県初のバリアフリー観光案内冊子『チェアウォーカー』や観光業の方向けに、障がい者・高齢者への理解・接遇をまとめた『業種別 観光バリアフリー対応マニュアル』など、これまで多くの冊子を発刊してきました。



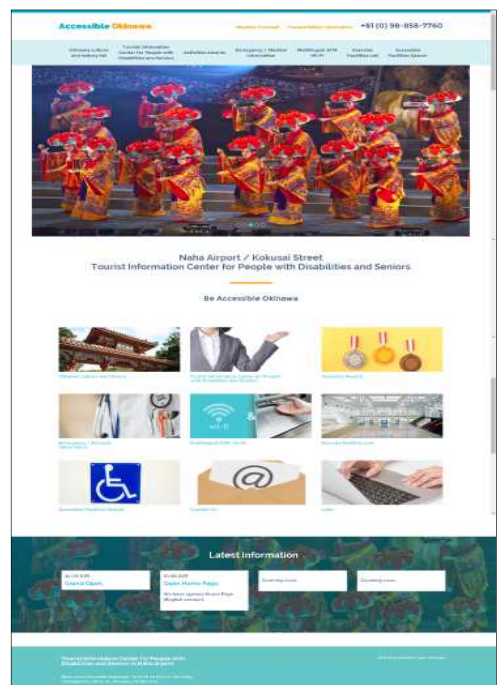
・ Accessible Travel Okinawa ・ 福岡・九州UD情報センター

「Accessible Travel Okinawa」は、観光庁の「訪日外国人旅行者向けユニバーサルツーリズム情報発信事業」の一環として、外国人観光客向けのバリアフリー情報発信サイトとして2015年8月にオープンしました。WEBサイトには、ツアーセンターの紹介以外にも、観光施設検索機能や救急・医療情報、沖縄県運動施設のバリアフリー情報も掲載しています。

また、福岡・九州UD情報センターHPが開設しました。福岡県のバリアフリー情報はもちろん、車いすのレンタル予約やお問い合わせフォーム、新着情報を更新しています。日本語・英語・韓国語・中国語など多言語に対応しています。



〈福岡・九州UD情報センターHP〉



〈Accessible Travel Okinawa〉

バリアフリー・ユニバーサルデザイン推進功労者表彰 地域再生大賞 優良賞

バリアフリーネットワーク会議はこれまで、障がい者や高齢者がより暮らしやすい社会になるよう様々な取り組みを行ってきました。障がい者等が旅行をする際に窓口となって様々な手助けをする観光案内所や、障がい者や高齢者への正しい理解や対応の仕方などを啓発するセミナーの開催、バリアフリーに関する情報誌の発行など活動の内容は多岐にわたります。

こうした取り組みが評価され、令和元年度(2019年度)に第18回「バリアフリー・ユニバーサルデザイン推進功労者表彰」、第10回「地域再生大賞」を受賞することができました。

令和元年度 バリアフリー・ユニバーサルデザイン推進功労者表彰

2019年12月26日、内閣総理大臣官邸で表彰式が行われました。この表彰は、高齢者や障がい者等すべての人々が安全・快適な社会生活を送ることができる共生社会の発展を目指し、バリアフリー・ユニバーサルデザインの推進・普及活動を行っている個人又は団体を表彰しています。

バリアフリーネットワーク会議は「那覇空港や福岡空港にバリアフリー旅行の相談窓口を開設するなど、誰もがストレスなく観光できるユニークかつ幅広い活動にチャレンジしている点」が高く評価され、令和元年度バリアフリー・ユニバーサルデザイン推進功労者表彰 内閣府特命担当大臣優良賞を受賞しました。



〈法人発行冊子『そらくる』を読む安倍総理と親川代表〉



〈表彰式〉